

伝統的部門の雇用吸収力とアングラ経済

——フィリピン漁村の実態調査を中心に——

<報告者> 鳥飼 行博 (東 海 大 学)

<討論者> 高田 一夫 (一 橋 大 学)

(小島 宏記)

国際人口学会・ローマ大学・メシーナ大学主催  
「先進国における前期成人死亡の人口学に関するセミナー」  
出 席 報 告

標記の国際人口学会・ローマ大学・メシーナ大学主催セミナーは1992年6月1日から5日にかけて、イタリアのシシリー島における風光明媚な町タオルミーナにて開催された。このセミナーの実質的組織は国際人口学会成人死亡研究委員会によって行われたもので、特に委員長の Alan D. Lopez 博士、同委員でローマ大学人口学部教授の Graziella Caselli 博士の企画と努力によるところが大きい。参加者は予定リストによれば68名に上るが、実際に出席したのは65名であった。この中の著名な学者として、ローマ大学人口学教授 Antonio Golini 教授、フィレンツェ大学教授で国際人口学会現会長の Massimo Livi-Bacci 博士、フィンランド、ヘルシンキ大学社会学教授 Tapani Valkonen 博士、ベルギーのルーバン・カソリック大学人口研究所教授の Guillaum Wunsch 博士、フランス国立人口研究所部長の Jacques Vallin 博士等が参加している。アジアからの参加者は少なく、僅かに厚生省人口問題研究所の河野稔果所長が出席したのみである。

セミナーは八つのセッションから成り立つ。セッション1. 成人死亡研究における理論的枠組、セッション2. 先進国における成人死亡の地域によって異なったパターン、セッション3. 死亡率格差の疫学的解釈、セッション4. 長期観測的社会経済的観点からみた死亡率格差、セッション5. 成人死亡に対する社会的役割：配偶関係、職業に関する格差の影響、セッション6. 成人死亡の性差、セッション7. 死亡率格差を縮小するための健康政策と必要なデータ収集、となっている。

河野所長はセッション3の座長を務めた。

(河野稔果記)

国際人口学会・アメリカ人口学会・メキシコ人口学会他主催  
「アメリカ大陸における人口拡散に関する国際会議」への参加報告

本会議は、「アメリカ大陸における人口拡散」に関する国際会議 (International Conference on "The Peopling of the Americas") と称し、1992年5月17日～23日までメキシコのベラクルス市で開催された。1992年がアメリカ大陸「到来」500周年にあたり、これにちなんで主に南北アメリカ大陸を対象として「到来」以前より今日にいたる出生、死亡、移動などの人口研究に関する知見を各研究分野からもちより、研究の到達点の確認を含めて広範囲に人口現象を分析しようとするものである。また、現在21世紀を目前にして歴史の転換期にあり、この会議を南北アメリカ人口研究の次の500年への新たな第一歩とする主旨のもと開催されたものである。開催地としてメキシコ国のベラクルス市が選ばれたのもこの地がメキシコでは最初にイベリア半島人が足を踏み入れた地であるという理由がある。

同会議は、国際人口学会、アメリカ人口学会をはじめ南北アメリカの5つの人口に関する学会、機関が主催したものである。上述のような目的の会議であり、研究報告のセッション (共通論題、個別のテーマ部会) も全部で37あり、内容も多岐にわたるものであった。関心をもった主なセッション名を以下に記した。

なお、研究参加者 (登録者) は南北アメリカを中心に世界から約360人、日本からはメキシコ在住者2人を含め4人が参加した。

4. 「Population perspectives : the Americas in the 21st century and beyond」  
組織者 Carmen Miro
  11. 「Initial stages of fertility decline」 組織者 Paulo Paiva
  12. 「The mortality transition」 組織者 Alberto Palloni
  13. 「History of family structure and gender relations」 組織者 Verena Stolcke
  17. 「Contemporary South-North migration in the Americas」 組織者 M. Garcia y Griego
  18. 「Megacities in the Americas/Megalopolis」 組織者 Gustavo Garza
  19. 「Internal migration and the changing balance of rural and urban population」  
組織者 Alfredo Lattes
  20. 「International migration within Latin America and the Caribbean」 組織者 Gabriel Murillo
  23. 「Demography of minorities」 組織者 Lourdes Arizpe
  25. 「Institutional basis of fertility change」 組織者 Joseph Potter
  26. 「Below replacement fertility」 組織者 E. Lapierre-Adamcyck
  27. 「Trends in marriage, cohabitation and sexual behaviour」 組織者 Elza Berquo
  28. 「Recent changes in family and household structure」 組織者 Ana Maria Goldani
  30. 「The sexual division of labour and demographic changes」 組織者 Z. Recchini de Lattes
- サイドミーティング
1. 「Fertility, development and migration : the economic connection」 組織者 Alexandro Cigno  
(西岡八郎記)

### 第3回数理人口動態学国際会議

第3回数理人口動態学国際会議 (3rd International Conference on Mathematical Population Dynamics) が1992年6月1日(月)より6月5日(金)の5日間、Ovide Arino 教授 (Pau, France) 以下の尽力によってフランスのポー市のポー大学 (University of Pau) にて開催された。この会議は主に生物学、遺伝学、疫学、人口学等における人口動態の数学的モデルに関心をもつ数学者、生物学者等によって組織された学際的な会議である。3回目を迎えた本会議においては150をこえる一般報告とともに13の招待講演が行われ、のべ180名をこえる参加者を得たことは近年における人口動態学への関心のたかまりを示すものといえよう。日本からは筆者の他に三村昌泰教授 (広島大学, 招待講演者)、松田博嗣教授 (九州大学) 等5名が参加した。特に今回は疫学モデル (Epidemics) に関して S. Busenberg 教授 (Harvey Mudd College, USA) および M. Iannelli 教授 (Trente, Italy) が組織者となった4つのセッションが設けられ、2つの一般セッションおよび AIDS に関する2つのセッションと併せて8つのセッションがあてられたことは、本会議の一つの特徴となっている。人口学関係の参加者は少なかったが、Marc Artzrouni 教授 (Loyola Univ., USA) が AIDS セッションにおいて、また筆者ならびに Noel Bonneuil 博士ら INED からの参加者が Demography and Ecology セッションにおいて以下の報告を行った。

M. Artzrouni : A modeled time-varying density function for the incubation period of AIDS.

N. Bonneuil : Regulation of a population under constraints.

F. Guerin-Pace, D. Pumain, L. Sanders : Dynamics of urban systems : theory and models.

H. Inaba : Marriage models in demography.

上述したように本会議は Population Dynamics をテーマとする会議としては極めて大きなものであり、この分野において著名な研究者の多くが参加しており、互いに知遇を得たことは筆者にとって大きな収穫であった。  
(稲葉 寿記)